

令和6年度に実施した自然環境調査の結果によると、カタクリの株数は増加していた。一方、みどりの活動団体等の報告では、開花数の減少、花茎や開花期間の短いカタクリが見受けられた。これらの原因の一つとして、高木の土壌水分の吸い上げの増加に伴う土壌の乾燥化が考えられる。そこで、カタクリの保全のための取組として、清水山の森における樹木のせん定等を行う。

1 カタクリ群生地内の土壌の乾燥化を防ぐ短期的な取組

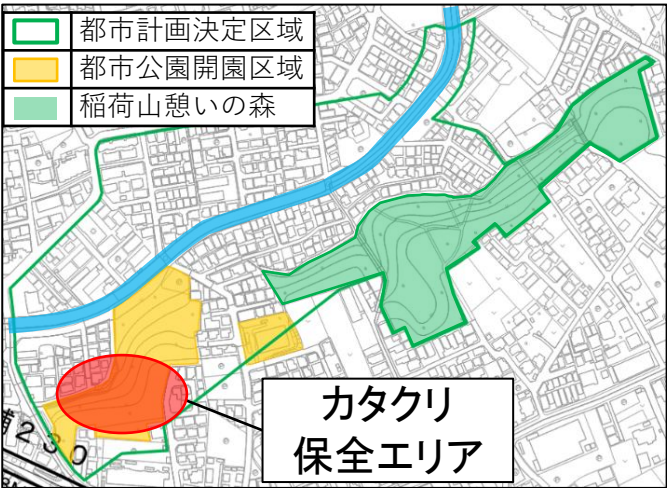
(1) 高木の蒸散抑制※1を目的としたせん定作業

- ・目的 高木による土壌水分の吸収量の減少
- ・対象木 概ね10本程度（高木構成種のうち幹周が90 c m以上で、立木密度、樹冠被覆状況および樹木の健全度を踏まえ選定）
- ・時期 7月中旬から下旬（予定）
- ・内容 通常の切りつめせん定ではなく、林床植物の保護や林床の照度管理など林床植物の保全を最優先としたせん定
- ・その他 せん定による発生材は一部を園内にて再利用

(2) 雨水浸透側溝の改良およびカントリーヘッジ※2の作成

- ・目的 雨水の群生地内への浸透および生き物の生息場所の創出
- ・内容
 - ・雨水を貯留しやすくするため、既設のU型側溝を改良
 - ・生き物の生息場所を確保するため（1）のせん定による発生材を一部再利用し、カントリーヘッジを作成

※1 蒸散抑制：植物の葉や茎から水蒸気が大気中に放出される現象（蒸散）を抑制すること
※2 カントリーヘッジ：公園内の管理作業等で出た発生材を使用した、自然由来の柵等のことで生き物の生息場所にもなる



稲荷山公園 都市計画区域全体図



2 中期的な取組（予定）

- (1) せん定等を行った後の自然環境調査
- (2) 調査結果等を踏まえて、蒸散抑制のせん定等を継続して実施
- (3) 周辺道路から雨水を集め、公園内に浸透させる施設整備の検討
- (4) 梅林の林床や南東角の空地を利用し、カタクリの受粉の一助となる昆虫類を呼び込むための環境整備の検討



清水山の森の現状



カントリーヘッジ（イメージ）
（東大泉にある憩いの森）